

# これがオススメ! 読み聞かせ本

高学年

指導要領で読み聞かせがすすめられて、読み聞かせについてのたくさん  
の本が出版されています。また、ブックリストもたくさん出ていますが、さ  
て実際に子どもたちに読もうと思うと、どの本がいいのか、どうやって読  
んであげたらいいのか、困ってしまいます。「これなら楽しく読み聞かせが  
できるよ」という本と読み方を紹介しましょう。

絵本を選ぶのはなかなか難  
しいものです。私自身、この  
本のよさを教えてもらえなけ  
れば、本屋さんで眺めていて  
も見過ごしたかもしれませ  
ん。しかし、一度手に取り、開い  
てみるとその絵の美しさと文  
章の力強さに圧倒されます。  
狩師である「おれ」は鹿を狩  
るけれど、しかしその鹿は自  
分の仲間であり兄弟なのだ。  
鹿の皮をはぎ、肉を食う「お  
れ」は鹿なのだ。

物語は親子代々自然の恵み  
を受けることを知っている狩  
師が、鹿を見つけ、ねらい、  
たおし、家に戻るまでが、シ  
ベリアの大自然の様子や家族  
の暮らしとともに、精密で美  
しい色彩で描かれています。  
大人は文字の方をつい気にし  
てしまいがちですが、子どもたち  
は素直に絵のすばらしさにひ  
たることができるでしょう。  
低学年から読めるように書  
かれています。本当にこの  
絵本のよさが分かるのは高学  
年からではないでしょうか。命  
を受け継いでいくことのすば  
らしさについても、じっくり  
味わうことができると思いま  
す。読み聞かせの後、ぜひひ  
とりひとりが自分の手に取り、  
読んでほしい絵本です。先生  
が読むときは、低めの声でゆ  
っくり読むことで子どもたち  
は絵本の世界に入り込むこと  
ができるでしょう。



『鹿よ おれの兄弟よ』  
神沢利子／作 G・D・バヴリーシン／絵  
(福音館書店)